

詠む広場

毎日俳壇

片山由美子 選

深酒の理由は聞かず蜆汁

△評▽シジミは肝臓によいとされ、二日酔いにも効果があるという。飲み過ぎたらしい夫だが、何も聞かず「蜆汁」を出すのみ。
寒稽古雑巾掛けも教はりぬ

磐田市 大石 志づ

△評▽廊下の雑巾掛けをすること
も少なくなった昨今、寒稽古で教
わったというのが面白い。
冬空に吊られてヒアノ二階へと

甲府市 村田 一広

立春の銀座の画廊巡りかな

志木市 谷村 康志

図書館の窓ぎはの席日脚伸ぶ

芦屋市 水越 久哉

窓口に筆談の紙春隣

松山市 井上 保子

菜の花や小流れ飛んで下校の子

日野市 田村登代子

しばしは蝶と巡りぬ浜離宮

和歌山 桑原 里美

終電を降りて終バス寒扇

真岡市 小川 充

白鳥引き静まり返る湖面かな

葛城市 久保 政子

小川 軽舟 選

スタジアム竣工近し春隣

△評▽新しいスタジアムが完成間
近の姿を現した。観戦が楽しみ、
そして街がどう変わっていくのか
も楽しみだ。
玉子の列しんがり妻の春コート

大栗市 宗平 圭司

△評▽卵の特売の列の最後尾にわ
が妻。何でも値段の上がる時勢を
捉えた庶民の一句。
響るるや永訣の朝口ずさむ

厚木市 飯塚 智明

臘梅や芝居がはねて三毛坂

仙台市 伊藤 和彦

工場の有刺鉄線寒の入

刈谷市 刈屋まさる

ぼつぼつと灯るタワマン夜鳴蕎麦

東京 関口 昭男

山中に厄除けの寺冬霞

伊勢市 奥田 豊

上司との熱燗セツトワンコイン

東京 伊藤 公一

息白し回廊長き永平寺

兵庫 小林 恕水

出航の練習船や松の内

神戸市 岩切寿美子

西村 和子 選

肯んぜず寒紅の唇かたく閉ぢ

△評▽硬い表現の効果で、厳しく
拒否されたことが伝わる。季語に
よって取り付く鳥もない女性の表
情が見えてくるようだ。
細き細き母の息聴く寒夜かな

名古屋 井上美保子

△評▽お母さんのみとりの句。聴
く「の」表記と、季語に緊張感が込
められている。
旧正や村に伝はるる面ひとつ

伊勢市 奥田 豊

帰り花されども死者は帰り来ず

羽生市 小菅 純一

大寒や湯気にぎやかに中華街

東京 徳原 伸吉

猫ひさに我はもたれて日向ぼこ

飯塚市 倉田 幸男

日髻れば海黒くなり野水仙

平塚市 高橋 佳代

模様替へ済ませて春を待ちにけり

狭山市 小俣 敦美

大寒の低き段差に躓けり

東京 山口 照男

独り居の心許無き寒夜かな

湖西市 富司 孝男

井上 康明 選

身の影と地続きにして春の土

△評▽地面に作者の影が差して、
その先に柔らかな春の土が続いて
いる。寒さと暖かさが交差して春
らしくなってくる頃。
本棚の十八史略日脚伸ぶ

奈良市 上田 秋霜

△評▽『十八史略』は中国の歴史
書。日脚が伸びて春はもうすぐ、
同書をひもといてみたいものだ。
婚の荷の葉の鶴亀山笑ふ

尼崎市 森下久美子

中指に肝臓膨らませ卒業す

国分寺市 野々村澄夫

龍太七き谷深々と粉雪降る

富士市 後藤 秋臣

笑ひ羅漢口の中なる春の雪

久留米市 持地 恒美

風花を吉野の人と見てゐたる

宇陀市 泉尾 武則

解体のビルの埃や牙返る

筑西市 大久保朝一

軒つららの手で折る溪の宿

川越市 大野有之介

どれほどの味噌入れやうか寒蜆

姫路市 板谷 繁



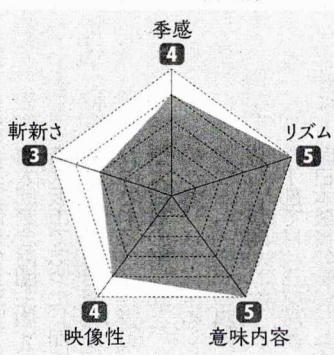
円堂実花

注目の一句

春近し好きと言ふ手話教わりぬ

キャロ子

チャートで採点



季語「春近し」の一句。旧仮名「言ふ」と新仮名「教わりぬ」の混在が残念ですが、季語にふさわしい明るさときめきのある内容です。登場人物がどういう状況で誰に手話を教わったかは読み手の想像に委ねられますが、すぐそこまで来ている春という季節、そして「好き」という言葉が、新しい出会いや恋の始まりを感じさせはしないでしょうか。もしかすると、教えてくれた人が恋のお相手なのかもしれません。ニユージールランドや韓国で手話は公用語のひとつです。今年は東京で聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」が開かれることもあり、自分も何か覚えてみたという手話への興味をそそられました。
(えんどう・みか＝俳人)

アプリ
俳句てふてふ

全国景勝地俳句コンテスト 俳句てふてふは富士五湖や耶馬溪など133景勝地にちなんだ俳句を募集中。1930(昭和5)年に高浜虚子選で実施した「日本新名勝俳句」の後継企画。選者は俳人の稲畑廣太郎さんと星野高士さん。詳しくはアプリ内の応募要項をご覧ください。



アプリのダウンロードはこちら